

令和5年度第2回鹿児島県立図書館協議会の会議結果の概要

開催日時	令和5年3月8日（水）午前10時から午前11時30分まで		
開催場所	鹿児島県立図書館 2階 第1研修室 ※オンライン開催		
参加委員	9名 { 内健史, 作井望, 尾場瀬ちなみ, 橋口知, 岡田祐介, 下豊留佳奈, 伊地知弘幸, 須部貴之, 下池かおり }		
公開・非公開の別	公開	傍聴者数	1人
問い合わせ先	鹿児島県立図書館総務課 (代表) 099-224-9511		
議 題			
<ol style="list-style-type: none"> 1 県立図書館の令和4年度主要事業の実施状況及び令和5年度運営計画（案）について 2 県立奄美図書館の令和4年度主要事業の実施状況及び令和5年度運営計画（案）について 			
審議結果等の概要			
各委員から次のような意見・要望が出された。			
【実施状況及び運営計画（案）について】			
<ol style="list-style-type: none"> 1 研修室貸出について使用料はどれくらいあって、どのように使用しているのか。財源になっているのであれば、さらに広報し利用いただき、新しい活動費に充てられたらよいが。 <ul style="list-style-type: none"> → 県立図書館の令和4年度の研修室貸出に係る収入は、前年度の倍以上になっているが、奄美図書館では半分程度となっている。使用料について、収入が上がった分を支出に回せるということではなく、収入に見合った分の支出が増えることにはならない。 2 大研修室で朗読会を開催したが、非常に快適に利用できた。使用料が図書館の予算に直接ならないのは仕方がないが、PRすることで図書館の利用者の増加につながるのではないかと感じる。 3 入館者はコロナ禍で減っているとのことだが、天文館図書館の影響はないのか。逆に調査相談は増加しているので、県立図書館の強みが浮き彫りになっていると思うが、何か分析しているか。 <ul style="list-style-type: none"> → 入館者数は対前年比で令和2年度は約14万人減少し、3年度は約6千人、4年度は約3千人と3年度以降は緩やかな減となっている。2年度以降コロナ禍による利用控えが続いているというところで、天文館図書館の影響はほぼないのではないかと考えている。 4 奄美図書館から県立図書館と講演等を相互に配信し、多くの人に参加できるようになったということは本当に素晴らしい取組だと思う。 5 バリアフリー化について、現在、施設的な意味でのバリアフリーと、読書という意味でのバリアフリー・ユニバーサルデザインという点に関して県立図書館はどういう取組をしているのか。奄美図書館についても、具体的な方法として今行っているサービス状況を教えて欲しい。 <ul style="list-style-type: none"> → 奄美図書館では、図書に関してはL1ブックや大活字本等一般的なものを揃えており、障害者サービスについての資料の購入も検討している。職員研修では目の不自由な利用者を想定した研修を行うなど、職員としてどんなことができるか模索しながらできることを実施している。来年度はリーディングトラックを学校に配布することなども検討している 県立図書館では令和2年度からマルチメディアデジター図書、サピエ図書館を導入している。当館が所蔵している障害者用資料やサピエ図書館について、12月に実施しているほっとフェスにおいて玄関ロビーに展示、紹介するなどの取組を実施し来館者に興味をもっていただいた。同日は、おはなしの時間の拡大版を行った際に初めての手話同時通訳を取り入れた。 			

6 両館とも素晴らしい取組をしているのにアピールが足りないと思われる。県立図書館はフェイスブック、奄美図書館はInstagramで発信しているが告知不足ではないか。フェイスブックとInstagramは運営会社と一緒になので、両方登録すると、一つに投稿すれば両方に同時登録できる制度などを活用するとか、その辺りを整理してみてもどうか。発信について今後の考えを聞きたい。

若い方にきていただきたいという話もあるが、奄美図書館ではW i - F iを整備しているが、県立図書館ではどうなのか。長野市の県立図書館ではイベント・ワーキングスペースを設けたり、本を読むための良い空間があったりといった取組をしている。今後の若い人向けにどのように環境を整えていくかを聞きたい。

→ 県立図書館でもフリーW i - F iは整備しており、若い方が利用されている。若い方々が入りやすい利用しやすい空間構成、大学でみられるような複数で資料を使って話し合うようなスペースの導入など、今後職員で検討していきたい。

奄美図書館では、発信の仕方についてはQRコードを活用したり、イベントの際に登録を呼びかけたりしている。フェイスブックの登録は今後検討していきたい。環境づくりは、隣接する奄美高校と連携して何か企画できないか検討している。

7 鹿児島と奄美で刺激し合って良い方向になればと思う。良い取組はすでに実施しているので、どのように発信していくかを工夫していくことで良く循環していくかと考える。

8 天文館で本屋をしている方は天文館図書館を脅威に感じているようだ。書店と図書館は設置の趣旨や存在意義が違うとは思いますが、印刷業界の衰退なども考えて、本を所有する喜びについても図書館が発信していただければと思う。

9 県立図書館に来たことがない人は敷居が高いとか、自分には不向きと考えてる方もいると思う。1度来れば様子がわかって県立図書館の良さがわかると思う。身近なところから呼びかけをしていけたらと思う。

10 喜界町の課題は、中学生・高校生が図書館で学習はするが、本の貸出につながっていない。若者向けの本など収集しているが、貸出が伸びないため、いろいろお教えいただければありがたいと思っている。

11 図書館の実施する研修が読み聞かせ活動の支援になっている。活動する多くの人にとって、同じ立場の者が繋がりが学び合えるということは何よりありがたい。

親子読書研修会も今年は県民交流センターで行えるということで、多くの人の参加を期待したい。また、学校司書から研修があることを知らなかったと聞くことがあるため、よく周知していただきたい。

子供たちに絵本を読む時、子供たちが自ら手に取らないようなロングセラーの絵本を読むことも多くあるが、子供たちは本の世界に浸ってよく聞いてくれるという印象を受ける。これまで語り継がれた絵本は本当に力があると思う。子供にどんな本を届けるかわからない人も多いと思うので、県立図書館のおすすめの本のパンフレット「にじいろの本」が選書の手助けになることから、これからも親子が集い活動しているところでも御紹介していただくとともに、今後も続けていって欲しい。

12 県立図書館の「県図なう。」の裏面にある宝本エピソードのコーナーが大好きで、子供を持つ親として、それから読み聞かせの仕事でも非常に参考になっている。この先も続けていただきたい。また、このコーナーだけピックアップしてネットとかSNSで発信しても面白いと思う。

- 13 奄美図書館では毎月ラジオに職員が出演している。岡田委員のラジオ等の番組で何か隙間があれば「今日の県立図書館の良かったコーナー」など、何かコネクトできたらということ考えた。
- 14 資料の中で「あまみエフエム」でそういうコーナーがあると知ったので、放送に携わる側として何かできないか考えてみたい。
- 15 一利用者として、県立図書館のロッカーの鍵がすごく硬くなっているところがあって職員に開けてもらった。ロッカーはたくさんあるので、硬くなっているところは張り紙等をして欲しい。
→ ご指摘いただきありがたい、早急に職員で確認させていただく。